

開催地名	徳島県 吉野川市
開催日時	令和6年12月16日(月)14:00~15:30
開催場所	日本フネン市民プラザ
語り部	松井 憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	自主防災組織40名、市危機管理課3名
開催経緯	本市では、南海トラフ地震や吉野川の氾濫等の災害発生が想定されている。自主防災組織が活動を行っているが、災害発生時に活動した経験は少なく、災害発生時に自分たちがどのような活動を行えばよいか、具体的な内容がわからない構成員が多数を占めていることが課題となっている。大規模災害での活動体験及び防災に知見を有する語り部に講演していただき、自主防災組織の構成員が、自分で課題について考え、行動していただく機会を提供する。
内容	<p><b>■災害の記録と影響</b></p> <p>2014年8月に発生した広島豪雨災害は、記録的な集中豪雨により広範囲にわたる被害をもたらした。この災害では、短時間に大量の雨が降り続き、土壌が耐えきれずに崩壊し、多くの住宅が土砂に埋もれた。特に、山間部や斜面沿いの住宅地では大規模な土砂崩れが発生し、多くの住民が逃げる間もなく被災した。</p> <p>当時の被災地の様子は、報道機関を通じて全国に発信され、自然災害の恐ろしさを改めて浮き彫りにした。家屋が押し流される光景や、住民が必死に避難する様子は、多くの人々の記憶に残っている。災害発生直後には、自衛隊や消防、警察による救助活動が行われたものの、土砂に埋もれた地域では救助が難航し、多くの犠牲者が出る結果となった。</p> <p>また、この豪雨災害は、単なる自然現象ではなく、都市の開発や地形との関係も深く関係していた。特に、急斜面に建設された住宅地では、長年の雨水の浸透によって地盤が脆くなり、崩落のリスクが高まっていたことが指摘されている。</p> <p><b>■被災後の復興活動</b></p> <p>広島豪雨災害の後、地域住民が中心となり「復興まちづくり協議会」が設立された。この協議会は、単なる復旧作業にとどまらず、地域の将来を見据えた持続可能な防災対策や、災害に強いまちづくりを推進する役割を担っている。</p> <p>被災地では、住民自身が復興に関わることが重要視された。災害を乗り越えた人々が、行政や専門家と協力しながら、住宅の再建やインフラ整備を進めるだけでなく、地域の絆を深める取り組みも行われた。その一環として、住民が語り部となり、自らの経験を次世代に伝える活動や、防災意識の啓発を目的とした施設の運営を行うようになった。</p> <p>さらに、復興過程では地域住民が主体となって意見を出し合い、新しいまちづくりの方針を決めていった。このプロセスを通じて、単なるインフラの復旧ではなく、人々の暮らしの質を向上させる復興が実現されつつある。</p> <p><b>■防災意識の向上</b></p> <p>この災害を機に、地域の自主防災組織の重要性が改めて認識された。災害発生時には行政や公的機関の支援が届くまでに時間がかかることから、まずは地域住民が互いに助け合い、初期対応を行うことが求められる。</p> <p>そのため、広島では防災マップの作成や、避難計画の策定といった活動が進められた。これらの取り組みは、住民一人ひとりが主体的に関与することが前提となっており、単に防災に関する知識を持つだけでなく、実際の行動につなげることが目的とされている。</p> <p>また、防災訓練の実施も活発になり、地域ごとに異なるリスクに対応した訓練が行われるようになった。例えば、土砂災害が発生しやすい地域では、避難経路の確認の勉強会が開催されている。</p> <p><b>■心のケアの必要性</b></p> <p>被災後の復興には、物理的なインフラの復旧だけでなく、住民の心のケアも欠かせない。多くの被災者は、家族を失ったり、住み慣れた地域を離れざるを得なくなったりしたことで、大きな精神的ダメージを受けた。</p> <p>こうした問題に対処するため、地域ではコミュニティ活動が継続的に行われている。具体的に</p>

は、定期的な交流会の開催や、被災者同士が支え合う環境づくりが進められている。

#### ■次世代への教育

防災意識を次世代に引き継ぐことも重要な課題である。災害の経験を風化させないために、小学生向けの防災授業が積極的に行われている。

これらの授業では、災害発生時にどのように行動すべきかについて、具体的なシミュレーションを通じて学ぶ機会が設けられている。

#### ■全体のメッセージ

講演の締めくくりでは、住民一人ひとりが自らの命と家族の命を守る意識を持つことの重要性が強調された。災害は決して他人事ではなく、日常の中で備えを行うことが、被害を最小限に抑える鍵となる。

また、復興活動は単なるインフラの整備ではなく、住民の心の復興や、地域コミュニティの再構築を目指すものであることが述べられた。地域が丸となって助け合うことが、災害に強い街づくりにつながるというメッセージが伝えられた。

この講演を通じて、災害時の行動の重要性、コミュニティの団結、防災教育の価値が改めて認識される機会となった。



開催地より

平成26年8月広島豪雨災害の経験や、地域の防災意識を高めるための自主防災活動など、実体験に基づき、わかりやすくご講演いただいた。本市においても、災害発生時に自主防災組織と可能な限りスムーズに連携して対応できるように、平時の研修や訓練を充実させていきたい。